磐城日日
發行所
磐城日日新聞社
福島縣小名浜町渚廻51
電話代表387番
振替仙台31,355番
編集兼發行人 長瀬芳郎

我れ若し市長なりせば ⑲

町是機關の設置を提唱

第二小學校長 增子銀次氏

〃われ若し市長なりせば〃の抱負第十番を承る小名浜第二小學校々長增子銀次氏は過去九人の市長候補が述べたもろ／＼の施策の外に町是機関の提唱を新たにし、現代政治の核心に觸れ従来の徒黨政治の幣を匡いたことは注目に價いする（梅野）

即ち增子銀次氏は、市長の抱負の中で

▼私心を捨てゝ眞に公僕精神に徹し町政に努力する

という根本精神を先ず吐露し

▼大衆の聲を聞き町民の納得のゆく町行政の樹立を謳い

▼町民の住みよい文化都市の建設に邁進する

と三大基本綱領を述べたのち、是等の精神と行動を恒久且つ澁滯なく行政面に實行してゆく爲に、是非共

▼民主的方法による町是を確立し町民と共に例え市長が変ろう共正常な町發展文化推進、町經濟の確立に貢獻する不動の町是確立を必要とする從來政治面の最大欠点に觸れこの是正策として町是機關設置の提唱を敢えてして、その市政運營に関するうん蓄の一端をほのめかし多大の關心を持たれている

▼評、即刻校長を止めて市長になる事を切望する（梅野）

泉村農業改良推進協議

多期における農業改良の指導面に多數の實蹟を擧げている泉村農業改良推進協議會（会長吉田正氏）では全村4Hクラブ（会長高木享氏）の協力を得て二十九日午後九時より全村公民館に於いて▽多疎菜及び麥類の肥料管理▽促成並に軟化栽培の準備指導▽野ねずみの驅除について▽農家簿記の普及及び指導、などについて講演會を行い多大の好果をおさめた

市長市議の變動

予想困難の廿九日

志賀氏第一位を進むと雖も次点立花氏との差僅かに三十六票、宛ら薄氷を踐む思いの兩雄決戰の中に二十九日が暮れ、余すところ六日、この中にあつて佐藤、齋藤両氏肉迫の急進振りが注目される

市議は飯塚勝氏第二位に進出して驚異の眼をみはらしめ、山野邊茂氏が次点に落ちて變動俄かに活發である、同日正午現在の得票數次の通り

▽市長

志賀要平 一七九七
立花秀吉 一七五八
佐藤政治 七一一
齋藤晃 六七八
小野幸次郎（九四）長瀬芳郎（八五）水野政次郎（五五）会田亮（五五）飯塚勝（四二）駒木根忠三（四〇）長瀬誠明（三九）鈴木孝雄（三三）髙木長年（二六）長瀬國三郎（二一）草野道人（一二）

▽市会議員

内山治德 六四六
飯塚勝 四五六
新田元治 三八二
長瀬誠明 三七五
江尻三陸郎 三六四
小野禮一 三二一
小野直千賀 二五七
小島源一郎 二三二
坪内潤 一九二
橋本佐多壽 一八〇
木田谷平 一七九
樋口二郎 一七一
黒澤廣 一六〇
菅原勳 一一一
野崎貞行 一二一
小野務平 一〇九
佐藤貞吾 九九
金澤勉 八六
箱崎滝三郎 八〇
石井幸平 七三
佐藤政治 七三
長瀬啓一 七一
竹原多津彌 六八
會田亮 六四
木村祐 六〇
柳内安子 五四
藤社大一 五二
小野和男 五二
小野幸次郎 五〇
吉田利治 四九
（次点 山野邊茂 四八）

農委選擧人名簿從覽

渡邊村選擧管理委員會では農業委員會選擧人名簿從覽を二十八日より來る二月二日まで役場前に一般の從覽に供する

水素勞組の組合費

日本水素勞働組合では去る四十三回組合大会に上提された規約一部改正及び組合費納入を%式に改める案件は一般投票に依つて決定することになり二十八日正午で投票を打切り開票の結果、組合規約の第八條及び第十六條の一部改正は絶對多數で原案通り可決、なお組合費を%式に改正するは九九四票對三五一票でこれも原案通り決定した

教室增築を急げ

PTAが期成同盟結成

小名浜第二小學校PTA会では廿八日午前九時より同校長室に役員會を開いて廿八年度学校當繕に関する問題を協議した結果PTA会を母体に学校管内の有力者を網羅して「第二小學校增築期成同盟会を結成し强力に町当局、教育委員会に陳情運動を展開する事になつた

第二小學校は現在生徒千二百四十七名を擁して廿三学級を編成し圖書室作法室、音樂室と特別教室を全部利用苦しい授業を續けて居り激增する新入生を收容する事は不可能に近い事であり此の際八教室の增築は是非とも必要であるとし今回の結成氣運となつたものである

また第二小学校は通学區が非常に大きく、また將來小名浜の發展地としての林の上、辨別方面を控えて人口の增加にともない、入学兒童の增加も見込され、第四小学校の新設案が建議されているが町財政から見て當分不可能である事も第二小学校を增設する理由にあげられているPTAとしては最悪の場合には全父兄の署名運動に迄發展せしめて実現を期すと語つている

しかし二十八年度予算獲得を期して各學校とも夫々運動して居り、實現の見通しは困難であると共に教育委員会がこれを如何に取捨撰擇するかは同委員會の第一の試金石として注目されるところである

必至の市長悲願

立花秀吉氏のゾ像 ⑲

望遠レンズで覗く 浜通り百年の季顔 〃 磐城日日 梅野生

立花さんはノッポである帽子を冠つて大またに歩いている恰好は、鶴の如き思索の足どりを示し一寸した若々しい氣品さえ感ぜられる、しかしひとたび帽子をぬぐと長い顔の上に不毛の山嶺が續き額と頭の限界が見極め難いから立花さんの顔は一層長く見える、ト額部に点々と見え始めた褐色のはん点は觀相家は長命の象徴と稱し百才の壽命を保障するが、生理学又は醫学の領分では、毛細管の機能減退に基ずく色素の凝結と言つたように記憶する

このような場合前者の言を利用するのが便利である

「あなたは長命の相ですゾ」

「えつへつへつ」

と立花さんの顔が笑いに崩れる

だが「山高きが故に尊からず」と申しますね、と一矢を放つと

いやア私の頭には樹はあるよ、只一寸白くなつたまでさ、それ露おき霜のおきどころとか云つたつぺ、要するに現在は思索の季節だよ

と、なかなか立花さんは味なことを云う

その立花さんの人生航路を振り返つて見ると、順風滿帆の歴史は尠なく幾多の迂余曲折に髮の毛を一本一本擦り減らし今日年齢以上に早く見事なオツム相となつた

しかし立花さんの眼は若々しい、この眼が鷹の如く物象を見凝め、ヂユールの激浪も火炎ビンの変事も難なく切り抜けた、九月の南方洋から難航した立花丸がどうにか落ちつく港に落ちついて休養と給水を完了し聽て後半生を賭けた出航準備に目下盛んに燃料を積込んでいる、立花氏が今日を賭ける決死の船出、市長丸の船長を決する模擬投票は本日現在强敵志賀要平氏としのぎを削つて 拔きつ拔かれつのシイソー戰で互いに一、二位を爭つているが、このスサマジキ様相は、来るべき実際上の選擧戰を象徴するものとして一般町民からも至大の関心が注がれておる

そこで立花氏は初代市長への悲願をかけ、たとえ弓矢八幡大菩薩と手を合わせることは忘れても、兎に角船はスピードだ、スピードは燃料だとせつせと燃料の蓄積に奔走しては航海準備に余念がない

先ず以つて立花を市長とするならば、立花の至誠と熟情は必ずや市民諸氏の希望と共に市政を推進するものであり、先ず以つて私は人間立花の最後の御奉公と此の意義深いすがたの中に有終の美を…

立花さんが夢の中にまで〃先ず以つて〃と演説の夢を織り込んでいるかどうか知る由もないが、レンズ氏はあべこべに夢の中で右のような立花氏の演説を聞くことがあり、嬉しくなつたり悲しくなつたりする

※　※

立花郎の夕まぐれ、厨に立花夫人が老の身に自らホウチヨウを握つている

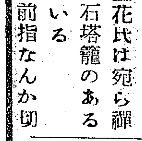
洋服の上からタンゼンを羽織つた立花氏は宛ら禪像の風格で石塔籠のある庭を掃いている

おーいお前指なんか切るめえよ

長い首を曲げて司厨室を振り返つているのは立花さん

あんたそんなことして風邪なんか引くまいよ

と短い首を伸ばして答えているのは夫人、何でも立花家にお孫さんのお芽出たが近いらしく、里返りの嫁さんの留守を、まアまアとれで安心と、六十年の生涯をいたわり合う老夫婦の地味な愛情表現の中に短い冬の日がトツプリ暮れた（寫眞は立花秀吉氏）



事務用印刷物
新聞・機關紙・その他一般
小名浜町渚廻り51
電219・387
長瀬印刷株式会社

市長市會議員模擬選擧
投票用紙

市長候補者	市會議員候補者
氏名	氏名

◇投票所 磐城日日新聞社

第一回小名浜町 圍碁大会開催

▲日時 二月一日 午前九時ヨリ
▲場所 小名浜町二小前 若葉館
▲申込所 磐城日日新聞社
▲會費 一人百圓
▲賞品 多數

發起人
浦田文二郎、松村源義、井上友一郎、長瀬國三郎、西村巖、安達新、高萩精玄、黒崎智雲、赤石澤醫師

主催 磐城日日新聞社

29―30　31―2
うなる白刄 身を灼く情炎!!
武藏と小次郎
島田正吾、辰巳柳太郎、淡島千景
松竹映畫超大作!!
我が家は樂し
高峰秀子、山田五十鈴、岸惠子
薩埵峠に対快する龍虎の血斗!!
修羅八荒
市川右太エ門、花柳小菊
月形龍之助
＝文部省推選＝
川べりの少年達
若原春江、河村弘二
植田町 菊田劇場 電話77番

内科 小兒科
會田醫院
院長 會田亮
小名浜町横町（電一四八）

日刊（除月曜） 昭和25年10月6日 第三種郵便物認可 昭和26年7月13日 運輸省特別扱承認684號
磐城日日
昭和28年（1953）1月30日（金曜日） 第744号【2】

渡邊村に石垣合戰

個人對部落てやつさもつさ

石垣を築いたことから論爭となり、部落を相手取つて土地問題にからむ建造物損壞として訴訟にまで發展、全問題を巡つて舊年末に部落を擧げててんやわんやの話題を投げている、事の起とは渡邊村大字田部小字初田四一農業遠藤要氏が昨年七月頃自宅前に長さ約二十米の石垣と塀を築いたところ全部落（区長粒來義夫氏）では全村大神前に通ずる村道に障害になる「交通上石垣を直立に築くことは面白くない、モット傾斜をつけるように」と申入れがあつた これに對して遠藤氏は「交通に支障を來たすならば善處したい、俺の地内に石垣を築いたのがなぜ惡い」と返事をしたが十四日部落では全石垣前の村道を改修し溝を新らたに石垣前に掘り、これに憤慨した遠藤氏は「俺の宅地まで侵害された、再調査して貰いたい」その結果部落が掘つた溝が宅地を侵害していると、部落に異議を申しのべたが部落では「そんなことは無い」と相手にせず、たま／＼十六日石垣約十米が崩れ落ち「溝を掘つたために石垣が崩れた」と云つて部落側に抗議したが、これを否定されたのみならず「崩れた石垣の土砂を二十四日までに交通の障害になるから除去すべし」と部落の決議だと書面で通告があつた、遠藤氏は「他の土地を侵して溝を掘り、それが原因で崩れ落ちたにも拘らず、早急に除去せよとは余りにも誠意がない」と遂に二十二日植田地區警察署に訴えた 全署では建造物損壞で目下調査中である

なおこの事件の中心人物遠藤氏は

石垣を築く時は交通に支障があつては、と思い、所有地より引込めたつもりであるが、部落では「リヤカーが通るに障害があるので傾斜をつけて築き直せ」と云つて來た、私には無斷で私の領地に溝を掘り、石垣が崩れたのを自己の非も省りみず期限付きで崩壞土砂を除去せよとは言語道斷です、この件から私一家を村八分させようと云う計画が進められていることも聞いている隣りの氷山氏が（農業委員）私の井戸より水を汲む人達（五戸ある）に村八分をやつたら遠藤の井戸から汲んではならない、と飲料水にまで干渉している、部落のため犠牲になつても、正式に訴證を起して斗います

と語つている

排他的な部落

遠藤氏は轉入者

これに反駁して部落側では

遠藤氏の石垣は通行上危險があるので、もつと傾斜をつけて貰いたいと云つたが、改修もしないようだつたので部落で決議して道路の溝を反對側（石垣の下）に掘つた、とのとき遠藤氏が無斷で掘つたと云つているが、自分でも作業に出ており、出來上つた際など、御酒まで出すと云つたが斷つたまでです、あの石垣は素人が築いたもので當初より龜裂が生じており 溝を掘らなくとも崩れるのは當り前の話である、それに辨償などとは余り勝手な話です

と語つている

某部落民談

どつちが正しいとか云うよりも今回の事件は政治の貧困を暴露したものに過ぎません、とこの大和田部落は外來者を除外しようと、する空氣が濃く遠藤氏も他部落よりの分家です この際部落民の反省が必要だと思う

根本助役談

聞いたばかりで眞相が判然としないので、何んとも言われません、村內の醜態として一日も早く解決したい

政府も澁い

弔慰年金で生活保護切打り

戰爭未亡人その他軍人遺家族に對する弔慰金、年金が支給されたが、生活保護法の適用を受けている遺家族に對してはその保護法の適用を廢止または一時停止する處置がとられて問題となつている一例を見ると二兒をかかえた未亡人が弔慰金二万圓を支給された場合一ヶ月の扶助料が停止される事になる、遺家族に對する弔慰金、年金と扶助料との性質は自ずから別途であり、實際的に見て生活保護法の適用を受けている家庭はその扶助料では文化的最低生活など営なみ得べくもなく、年々に積つた借金、不義理の精算、愛兒に「お父さんのお金で」と服の一着も新調してやれば消える金額である、この様な處置は遺家族を侮辱するものであり、その生活をおびやかす處置であると云う聲が強よく當面する理事者の裁量ある處置が要望されている

しかしこれに對して厚生課では

皆様が選出された代議士諸彦の決定された法ですから私達には……

と語つている

自殺者が十二名

小名浜署昨年度統計

小名浜地区警察署では二十七年中に管內で發生した自殺事件について此の程次の樣に發表した、それによると全部で十二名內未遂は六名となつている、內譯は次の通り

▽首吊り…一
▽入水死…二
▽刄物使用…一
▽劇毒藥 四
▽飛び下り…三
▽飛び込み…一

となつており原因動機別には

▽病苦によるもの…三
▽家庭不和…三
▽前非を後悔し…一
▽將來に絕望し…一
▽業務失敗…一
▽失戀…二
▽厭世…一

となつている

この中には父親が子供を道連れに、母親が子供を道連れにと人道上最も非難されるべき、しかしそれだけ深刻な人生問題、社会問題を惹起した事件や、はるばる東京から自殺した戀人を尋ねて來て戀人の後を追つた早春譜或いは八十万の詐欺にあつて營業不振を苦にして死を選んだもの、中に見立だつ病苦の三名は未だ憲法に保證された最低生活が保證されず社会福祉の欠陷を如實に物語るものであり種々に尊い教訓を殘している、またこの中には夫えの面あてに狂言自殺をたくらんだ女など警察を愚弄した事件も含くまれている

金庫ごと五十二万

中坪佐川さん御難

小名浜地区警察署では小名濱町生れ住所不定無職小野市郎（二四）小野元（二〇）の兩名を窃盗の容疑で逮捕取調べている兩名は共謀の上昨年七月十二日午後十一時頃小名浜町中坪一八佐川五郎さん方に侵入同氏所有の手提金庫一ヶ（時價三千円相當）と中に入つていた貯金通帳、寶クジ、印鑑など總額五十二万二千二百円相當を窃取した他、同日午後十時頃同町古港酒販賣店仙坂重太さん方から一升瓶詰清酒二本を窃取するなど數件の窃盜容疑によるもの

天氣豫報 30

（本日）北西の風稍强よく大体良い天氣ですが北部山沿では小雪のちらつく事もありましよう（海上）氣節風がつよく風波が高いですから漁船は注意を要します

魚菜市況 29

（小名浜中央青果市場）
卵一〇、三〜一一馬鈴薯二八〜五一甘諸二九〜三五油菜（一把）二、九〜四、一大根一五〜二〇切いも一一九〜一三〇里いも六六ねぎ四七〜五一人蔘四五牛蒡六〇〜八〇ほうれん草一三六黒豆八五〜八七

（魚市場）
たこ一七〇たか四〇〇きまつ五〇〇中めた三五〇大めた四一〇めた四一〇ぎす一四〇さめがれ二二〇はも二五〇えび九八〇脣入二〇黒子二八小赤三赤

自由の名の下に

合理化された暴力 ②

小かじ 昭

天皇制と資本主義に內在する矛盾を防ぐ暴力裝置としての警察が主力をそそぐのは昔も今も反政府反搾取階級の行動であり國民の言論、出版 集会結社、思想 信仰 示威行進等々の取締りや選擧における干涉……特に階級的反對派に對する徹底的彈壓である

日本でも 西洋でも官僚の本質として 上にいやと言うほど「ひくつ」となり、下にいばるのであるが、日本警察は特にそれが激しく、これも今日まで續く警官の特徵となつている。このような警察でも 國民の自由權利を保護するものであるなど、と時の政府は、もつともらしい顏付きで、國民に向つて宣傳した、それに對し國民は頂向から批判したポリスは立小便をした、犬のけんかをさせたと何でも彼でも罰金をとる然もポリスがこれらのまを犯したものを取り扱う樣子を言えば、頭に帽子を戴き、ラシャの羽織に仙台平の袴、官員樣めきたる人物には大變ていねいなれど、僕らの如く身に荒布を着したるものには、むやみにりきみかえり、ヒョッとこちらが立つて居て挨拶でもすればこそ大騷動、忽ち目をむき、口をとがらし、どらの樣なる聲を發して叱りつけ、事によれば携うる棒を以つて足腰の立たぬ程に打ちすえることでござる」「ポリスは給金を國庫より受くれば、やつぱりめいめいより出す所の年貢運上の余澤をこうむるものでござりましよう、この故に昔の番犬或いは番人などというものに對して似よりの品物を心得ます、さるに今のポリスへ政府の威光を笠に着て、御主人同樣なる國民を「ゴミ」「アクタ」の如くに見なし、國民の權利を保護すべき道具でありながら、却つてこれを害う仕業に及べるは實にきものつぶるる話、諺に言う飼犬に手をかまれる譯にて……」と（小川爲治「開化問答」明治文化全集）

皇恩のあつさにむせびなき、天皇の命を重しとする忠良の臣民、天皇のためにシャレコウベを異國の山野にさらしても悔いないとこや、天皇のために死んだ氣になつて資本家の財布をふくらますために、無條件的な奉仕を教えこむ愛のムチであつた治安維持法はどのように濫用されたであろうか

貧困のなかにありながら健康で知識慾に燃えた最も頼もしい前途有爲の青年が、最暗黑警察國の団体を有難らず、私有財産制に疑問を持つように追いときれ、不ていの輩として、どのようなゴウ問を加えられたかというとそれは又奇怪であり、身の毛のよだつような仕方でもつた小林多喜二はこれを正確に寫實している

「取調室の天井を渡つている梁に滑車がついていて、それの兩方にロープが下つていた。龍吉はその一端に兩足を結びつけられると逆さに吊り下げられた、それから、どうつきの」ように床に頭を〃ドーン〃ドーン〃と打ちつけた、その度に堰口を切つた瀧のように血が頭一杯にあふれるほど下つた、彼の頭、顏は文字通り火の玉になつた、眼は眞赤にふくれ上つてとび出した、助けてくれと彼が叫んだ、それが終ると熱湯に、手をつつこませた一

上映中 金美館
30日マデ
紺屋高尾
赤い灯

印刷
長瀨印刷所
小名浜町 電219

お知らせ
皆様毎度御引立にあずかりました美津和で御座いますが此の度弊店の都合により三ヶ月間休業を致します。
亦開店の節は舊に倍しまして御贔負下さいます樣尚今後共に行末永く御愛顧賜はりますよう紙上を以て御願い申上げます
轉居先 湯本町上町マルタン裏
美津和

湯本温泉みやげ
湯の里
新高パン店
電236

外科・整形外科・性病科
內科・胃腸科・小兒科
婦人科・歯科・レントゲン科
平市南町二十三（電一〇七）
醫療法人 松村病院
院長 松村亨
大田耕作
河島清作
岸本隆夫
松村政次
新妻春治
菊地政次
放射線科
藥劑師
看護婦募集

常磐線唯一の設備を誇る
効能と環境に惠まれた温泉
加賀百万石の昔より由諸深く、加賀山より湧出する湯花を人造的に加工せず天然に沈澱させて用いております
ウチミ、クジキ、慢性リウマチス、神經痛、胃病、皮膚病などに特に効果あり、また当館は有名な小名浜公園內にあり眺めもよく附近よりの評判よく毎日湯治客で賑わつておりキツト皆樣に滿足を與えることと思います
御夫婦の方には夫婦風呂も完備しております
席料一日分百圓 半日分五十圓
お泊りには部屋が完備しております電話下されぱサービスカーが參上いたします
女中さん數名募集 依細面談
温泉旅館 萬里荘
小名浜公園內
電話二七五番